

氏名	山崎 雪恵
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 5877 号
学位授与の日付	平成31年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Unintentional Injury Deaths among Children: A Descriptive Study Using Medico-legal Documents in Okayama Prefecture, Japan (2001-2015) (乳幼児の不慮の事故死: 岡山県における法医学情報を用いた記述疫学 (2001-2015))
論文審査委員	教授 塚原宏一 教授 大塚愛二 教授 浜田 淳

学位論文内容の要旨

2001年から2015年に岡山県で発生した異状死 32,852 例から、5歳未満の小児の不慮の事故死を抽出し、法医学記録から年齢、性別、事故の概要等を記述した。解剖例では家族構成、事故の詳細状況等も記述した。73 例が抽出され、22 例は解剖されていた。死因の種類別では溺水、窒息、交通事故の 3 つで 90%以上を占めた。年齢別では、0 歳では窒息、1 歳以上では溺水が多かった。溺水の発生場所は 0-1 歳は浴槽、2 歳以上は用水路の割合が高かった。窒息の種類別は 0 歳では鼻口閉塞が半数、1 歳以上では食物誤嚥が 3 分の 1 以上を占めた。交通事故は 1 歳以上では同乗者より歩行者が多かった。解剖例からは、保護者の監視から外れて小児が事故に遭う具体的状況等が判明した。日本では小児の不慮の事故死は情報収集が困難とされている。人口動態統計からでは得られない事故の特徴を記述できる法医学記録の解析は、小児の不慮の事故死の予防に有用と考えられた。

論文審査結果の要旨

小児の不慮の事故死は外因死の中で大きな比率を占めており、その予防はきわめて重要である。しかし、日本においては小児の死亡事例を詳細に調査・検証する制度が整っておらず、そのような情報を得ることは困難である。

本研究者は、人口動態統計に代わるものとして法医学記録(2001～2015 年)を用いて岡山県で発生した満 5 歳未満の不慮の事故死を解析した。調査期間中の不慮の事故死は 73 例(男児 50 例、女児 23 例)であった。主要なものは溺水(29 例)、窒息(24 例)、交通事故(13 例)であり、これらで全体の 90%を占めた。他に火災(4 例)、転落(2 例)、その他(1 例)があった。解剖率は乳児が 60%(12/20)、1～4 歳児が 19%(10/53)であった。不慮の事故死の要因には年齢によって特徴が見られた。また、監護者が子供から目を離している時に事故が起きた事例の多いことがわかった。溺水、窒息、交通事故などで死亡した事例の具体的状況も明らかになった。

日本では小児の不慮の事故死の情報を得ることは困難であるが、本研究によって、不慮の事故の予防対策を考える上で法医学記録の解析が有意義であることが示された。これは重要な知見であり、今回の研究成果は価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。